



Change! 2022 ニュース

No. 34

Change! 2022 推進委員会 2022. 4. 15 発行

▼ 会員増強に思う

「会員獲得というマーケティングを考える」

ワイズメンズクラブ東西日本区担当主事/連絡主事

光永 尚生 (三島)



現在、熊本 YMCA 総主事を拝命しています光永尚生です。2015 年より延べ 8 年余り、東西日本区担当主事を拝命し、現在も富士山部・三島クラブに入会しています。2009 年には、東京ひがしクラブに入会して所属

していました。

私とワイズメンズクラブの出会い、熊本 YMCA に入職した 1987 年 5 月に、熊本ジェーンズクラブがチャーターされた時まで遡りますので、熊本ジェーンズクラブの歴史と私の YMCA スタッフとしてのキャリアは同年となります。私の大学の恩師が、卓話に招かれていたことも偶然の賜物でありました。私は、YMCA に入職して、様々なワイズメンとメネットとの出会いがありました。そのたびに、感化を受け、新しい賜物を与えられてきました。今では、東西日本区の担当主事を長く拝命してきましたので、北は北海道から、南は沖縄に至るまで、ワイズの仲間の皆さんと YMCA のスタッフの皆さんを合わせると、ほぼ 40 都道府県くらいには、所謂、「飲み仲間」というか、会いたくなる人、飲みたくなる人、話したくなる人がいると、自分勝手に思っています。しかしながら、その自分勝手な思い込みこそ、私の宝物であり、何よりも 36 年間を共に過ごしていただいた仲間の皆さんであると強く感じています。

今回、「会員増強に思う」というテーマをいただきましたので、そのような私が感じていることを以下に記載してみました。

まず、会員増強という言葉の意味ですが、会員増強とか、EMC など、ワイズメンズクラブと YMCA は横文

字表記が好きですので、シンプルにしていくことも検討できます。会員増強=EMC=E+MC=会員獲得運動=会員一人が、会員一人を獲得するためのキャンペーン運動=会員倍增運動=etc. いろいろと妄想してまいります。

私の考えでは、目標設定と具体的に期間を決めて、ブレイクダウンすることが良いと思っています。例として、偶数月は、会員増強月間は〇〇部と◇◇部で推進。奇数月は、シンポジウム開催は、▽▽部と□□部で担当。具体的な動員目標、参加の縛りなど、1年に何度か義務を果たしていただけるようなものがないかと思えます。そのうえで会員の皆さんが、具体的にどのようにして会員獲得を行っているのかを「見える化」できるようにしたほうがよいのですが、現在、様々な見える化へのチャレンジがされています。そこで、21 世紀は「AI やロボットの時代」だとしても、「21 世紀は人新世=人が中心の世界」として考えていくときに、何が新しいものであり、何が古いものであるかを徹底的に考えて、マーケティング的に考え、「顧客」を創り出すという手法が良いのだと考えています。

ピーター・ドラッカー的には、市場として、顧客創造のための働きが、NPO のマネジメントで語られています。一般社団法人化した中で、NPO のマーケティング手法に学ぶことも今後必要十分条件かもしれません。私の考えるマーケティングは、とにかく評判や口コミです。熊本 YMCA では、毎月何回、新聞で取り上げていただくのか、何回テレビやネットで取り上げていただくかなど、通常の広報活動に加えて、重要視しています。そのうえで、機関誌やメール配信、その他あらゆる方向に向けて発信していることで、受信を増やしています。このように「見える化」には人手も必要ですが、考え方としてのマーケティング手法もあるでしょう。

個人的には、依頼されたことには、答えは 2 つしか持たないことにしています。「わかりました」と「喜んで」という返事ですが、このようにお願いすることを推進することこそ、内側に来ていただく有効な手法かもしれません

るので、まずは、「願する手段」「願する方法」「願したら承諾していただける」ような例会、CS活動、新しい企画などを推進するのが王道なのかもしれません。そのためには、25:25:50の法則として、アイデア25%、計画25%、実行50%の労力の分配も必要でしょう。実行が伴えば失敗事例も増え、成功体験につながると思います。

今後のクラブ単位の構成ですが、合併や縮小の波は来るかもしれませんが、国際的な手続き云々以前に、まずはエリアでもっと協働できないか、合同での活動、合併ではなく一緒に集まれないか、活動方法の見直しと成果の創出。そして、何より、賛同者に「声をかけているか」。元気のいいクラブに共通しているのは、「願すること。声をかけてすること。」そして、離合集散を繰り返すことなどあります。いろいろな多様性をめざしていく「勇気」が今必要なことではないかと思っています。私は、熊本ロータリークラブに昨年度、熊本YMCA代表として入会していますが、丁寧に説明され、入会后2か月は受付に立ちました。最初からでしたが、このような役割の創出は価値観の創出につながると感じました。

《 光永 尚生さんのプロフィール 》

1960年10月25日	熊本県水俣市生まれ
2009年	東京ひがしクラブ入会
2016年	三島クラブ入会(2021-22書記)
2016-2022年6月	東日本区(西日本区)担当主事
2019-2022年	ワイズ・YMCAパートナーシップ 検討委員会委員
2021年8月	熊本YMCA総主事

▼ 「(仮)新潟クラブ」設立に向けて

東新部エクステンション委員長

太田 勝人 (東京町田スマイリング)



東新部の「新」は、新潟の「新」から取ったものです。信越妙高クラブが残念ながら閉鎖となって以来、また「東新部の歌」を唱和するたびに、何とか新潟に新クラブを設立したい、との思いは常にありました。評議会にて、新潟に創るよりは首都圏にもっと創ろう、という意見もいただきました。

1. 進行状況報告が出来るきっかけは、「2021年11月11日、お茶の水にある東京YWCAにて開催されたYMCA/YWCA 合同祈祷会」に、松香光夫東新部部长と権藤徳彦部書記が参加して、日本YWCA尾崎裕美子総幹事にお会いし、要件を伝えましたところ“新潟YWCA 横山由美子会長”をご紹介下さり、かつ尾崎さんから横山さんに連絡して頂きました。また横山会長は、敬和学園の理事と共に日本基督教団新潟東中通教会の会員でもあることが判明いたしました。

2. 松香部長より、高校時代の同級生で敬和学園創始者太田俊雄氏のご子息で太田敬雄さん(群馬県安中市在住、元敬和学園教師、現在国際比較文化研究所所長)に意図を伝えたところ、3月5日にご返事があり、「敬和学園卒業で新潟にいる幸田一彦氏に連絡した。新潟東中通教会・片岡賢蔵伝道師—YWCA横山由美子会長とも現地でワイズメンズクラブ設立の希望を話し合えた」旨頂きました。

3. そして3月7日「東京町田コスモスクラブ3月例会」にて、卓話者・片岡敏光さん(元東京まちだクラブ会長・片岡賢蔵伝道師の父)で、横山由美子会長もオンラインで参加して下さい、挨拶が出来ました。横山さんはYWCA会長を務めながら、再生可能エネルギーを推進する地域活動「おらって(=私たち)新潟市民エネルギー協議会」の中心人物であることが分かりました。既にCS活動のテーマの市民仲間の繋がりがあり、更なる発展が期待できる方です。新潟県人による、新潟のための「ワイズメンズクラブ設立」を目指しているエクステンション委員会の総意として、ドンピタリの人脈発見となりました。

4. また新潟東中通教会の片岡賢蔵伝道師の父上・片岡敏光さんが元「東京まちだクラブ」の会員でもあり、深い縁を感じました。片岡賢蔵伝道師のメネットが同教会の牧師さんです。

こうした人とのつながりがあり、新潟への新クラブは「クリスチャニティー精神」と「次世代の青少年・学生にしっかり繋がる支援」を基本に据えて、新クラブを創ろう、と肝に銘じていましたので、願ってもない展開となっています。

次期エクステンション委員長を松香現部長が引き継いでくださることになり、こんな嬉しいことはありません。東新部は上昇反転を目指して参ります。

▼「関東東部EMCを考える集い」を開催して

関東東部書記 利根川 太郎 (川越)



関東東部では、2022年4月2日(土)14:00～16:00、Zoom会議にて標記の集いを開催しました。参加者:46名(関東東部クラブ40名+他部クラブ6名)

総合司会を金丸満雄・関東東部EMC事業主査が務め、以下のよう
なプログラムが行われました。

1. 開会挨拶

関東東部部長 大澤 和子(所沢)



副題の～E:笑顔で、M:もっと、C:クラブ活動を～は、私が昨年掲げたものであるが、EMC(会員増強)は目的ではなく結果であると思っている。

所沢クラブで4名が入会したが、私はEMCには二つの秘訣があると思う。一つは、クラブ活動を楽しむこと。マズローの5段階欲求説で、最上段にあるのは自己実現欲であるが、ボランティア活動はまさに自己実現であり、高度な喜びと言える。Eの「笑顔」はこの喜びを表している。二つ目、Mの「もっと」は、もっともこの喜びを多くの人に知らせたいということ。喜びや楽しみを分かち合いたいと思い、自分の大事な人を誘った。好きな人と楽しいことをやるということほど幸せなことはない。「笑顔でもっとクラブ活動を楽しく」、みなさんも一緒に楽しみましょう。

2. Change! 2022 推進委員会報告

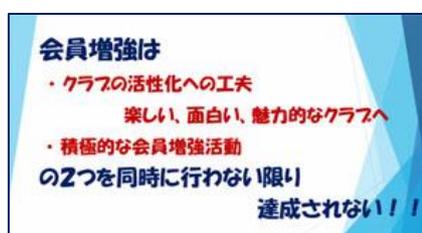
Change! 2022 推進委員 藤井 寛敏(東京江東)



東日本区の会員数は、2013年には1,000名を割り、2017年には900名を割り込み、危機感があった。そこで2019年にこの“Change! 2022”がスタート。ワイズ100周年となる2022年末までに、東日本区誕生時の1,246名の会員数となることを目指している。

2019年にはアンケートを実施。ワイズに求めることという設問では、1.奉仕(89%)、2.社交(51%)、3.研鑽(40%)となった。また、Change! 2022 ニュースの発行、シンポジウム開催、アクションプランII策定を行った。

2020年に千葉ウエストクラブが誕生、2021年度にはスマホ専用サイト「動画で分かるワイズメ



ンズクラブ」カード(QRコード)を作成した。大久保理事の発案により、会員候補者向けに「ワイズ・ナイトフォーラム」を開催。すでに4回実施、今後4月16日と6月に開催予定。知り合いへの声かけをお願いしたい。

3. 関東東部における会員増強の現状と目標

EMC事業主査 金丸 満雄(東京ひがし)



今期の部 EMC 事業のテーマは「和・輪・ワッ!」で、各クラブ1名の増加を目指している。千葉ウエストクラブに1名の増加があり、幸先のよいスタートであったが、コロナ禍で各クラブが会員増強に苦戦している状況である。その中で、新年早々、所沢クラブに4名の増加があった。これにより、5名の増加となった。

反面、熱心な会員2名が逝去され、加えて3名の退会者があり、部全体の推移はプラス・マイナス・ゼロである。最後まで東日本区の目標である1,246名に関東東部も貢献したい。

新しいクラブの誕生については、昨年この集いで茨城県牛久地区に新しいクラブをという動きがあることを報告した。その後、スポンサークラブとして茨城クラブと交渉をしたが、しばらく様子を見ることとしている。

4. ディスカッション コーディネーター

次期部長 工藤 大文(東京ベイサイド)



このパートは、自己紹介、ワイズに入会の経緯および活動内容、新入会員を誘う際に気を付けることなどをパネラーごとにまとめて報告する。

1) 大原 真之介さん(東京江東/2019年5月入会)



1998年から江東YMCA幼稚園、コミュニティ・センターのスタッフとして、体操、サッカー、キャンプなどを担当し、指導していた。YMCAを退職後、引き続き江東の方々とかかわりたく、ワイズに入会した。

活動は、木場公園の花壇での子どもたちとの種まき、サッカー大会の支援、東京ベイサイドクラブと協力して、カンボジアに衣料を送付、RBMの継続、ZoomによるIBC、DBCとのクリスマス、新年会などである。

いちばん印象に残っている活動は、YMCAのスタッフだったので、ユース・リーダーとの協働は楽しい。ユースボランティア・リーダーズフォーラムは継続したい。

自分は地域の活動で満足している部分があるので、未だ、他の人を誘うまで自分の熱量が上がっていないのが現状である。

2) 宮地 輝子さん(所沢／2022年1月入会)

4年前、所沢クラブの例会に大澤部長から誘われて参加。その後も例会に、参加してきた。毎回おもしろい、ためになる内容で、ただで聞かせていただいで申し訳ないと思い、入会した。

入会して良かったことは、卓話が引き続き聞けること、メンバーとの親睦があることである。入ったばかりでまだ何もできていないが、今後、積極的に活動に参加したい。ワイズは、何か人のためにしたいという志のある方々の集まりであると勧めたい。

3) 千代 一郎さん(東京ひがし／2017年5月入会)

ワイズとの最初の出会いは、友人に誘われて、東京ひがしクラブの佐渡島テント合宿に参加したこと。そこでメンバーと知り合い、協働する体験が素晴らしく、引き続きひがしクラブの活動に参加するようになった。その後、1年間はオブザーバーとして直接、間接的に参加し、5年前に入会した。参加してみてもクラブの雰囲気よかったです。入会の理由。

こども食堂の活動では、最初は皿洗いであったが、今は少し包丁を使う役になった。コロナ禍のため、子どもと食事を共にすることはなく、食事を渡すのみの活動をしている。その他、YMCAバザー、江東区民祭りでの模擬店出店、3月のピースウォークも活動として楽しんでいる。これからも地域により密着した活動をしたい。

4) 生川 美樹さん(川越／2019年11月入会)

川越クラブの利根川恵子さんと旧知の仲であり、入会前に、第20回東日本区大会(川越)、アジア太平洋地域大会(仙台)で、ボランティアとして運営を支援した。自分にできることがある、自分も学ぶことがある、ということで入会した。

地域奉仕活動として、こども食堂の支援をしている。子どもたちの笑顔が見られるのがうれしい。またワイズばかりでなく、地域のいろいろな方と知り合いになれたことはよかった。

現在はコロナ禍で活動が制限されているが、今後コロナ禍が終わったときに、クラブを超えて、国内外の横のつながりが広がればよいと思っている。

5) 飯田 祐基さん(東京ベイサイド／2019年8月入会)

長男が、しのめ YMCA 幼稚園に入園直後に講演会があり、ワイズの活動に興味を持った。入園に合わせてしのめ地域に転居したため、こどもも参加できる地域の活動に興味を持った。

地域奉仕活動としては、YMCA 幼稚園の活動支援で、地域の清掃、フリーマーケットへの参加などを行った。

東京ベイサイドクラブのメンバーを含めて、卒園生の親とつながれたこと、自分の子どもの幼稚園の内容がよくわかったことが、ワイズ活動の産物である。イベントに参加すると、多くの父親が参加して支援していることがわかり、この地域に転居してよかったと感じる。

新入会員を勧誘するために、会費や寄付金等お金の使用先をはっきりして説明できるようにしたい。また、会員を増やすことについては、まだ入会したばかりのためか、ワイズへの帰属意識が低いのかかもしれないが、増やすことが目的であるのは納得できない。

6) 岡田 祐三さん(千葉ウエスト／2020年10月入会)

千葉ウエストクラブがチャーターされたときに、職場の先輩、高校の先輩から声をかけられた。退職後の人生の充実・生きがいはどうするかと考えていたので、ワイズメンズクラブが若者を支援していること、移民の問題等、国際親善、国際協力活動ができることを知って入会した。残念ながら、千葉ウエストクラブはコロナ禍で生まれ、未だ十分な活動ができていない。うれしいことに、YMCA がウクライナ避難民の支援を実現した。このような動きが組織的に大きくなればよい。

活動としては、こども食堂支援を開始した。これから、強力に支援したい。

船橋市では多くの団体が活動しているが、ワイズはその中でも会費が高い。高くても活動に納得すれば人はいるだろうが、費用面で一工夫がほしい。

7) 参加者からの質問・感想・意見等

ディスカッション終了後、4名の方からワイズへの誘い方、ワイズの国際性、ワイズ・ナイトフォーラムのアピールなどがあり、柿沼敬喜直前部長の「まとめ」で会を閉じました。

《入会候補者向けにワイズの魅力を紹介！》

ワイズ・ナイトフォーラム

第5回 4月16日(土) 20:00~22:00 Zoom
卓話者：江夏一彰さん(東京武蔵野多摩)

日本聖公会司祭・多摩総合医療センター医師
『コロナ禍でも生きる…』

パネルディスカッション：『北東部のCS活動』

下記は参加用アドレス

<https://us06web.zoom.us/j/86832303212?pwd=d3NVQkNYMONIKOZEaXRONEFuaVVvUT09>